

国際シンポジウム
震災被害への有効な心理支援に向けて
—今、臨床心理学はどのような社会貢献ができるのか—

主催：一般社団法人 日本心理臨床学会 後援：東京大学 救援・復興支援室
日時：2011年10月10日（月・祝）／会場：東京大学・安田講堂（同時通訳付き）／定員700名予定
参加費：学会員及び学生 3,000円／一般 4,000円 （臨床心理士の継続研修ポイントになります）

開会 10:30～11:00

挨拶 鶴 光代（日本心理臨床学会 理事長）
企画趣旨 下山 晴彦（日本心理臨床学会 国際交流委員長）

第1部 招待講演：心的外傷体験に対して臨床心理学ができること 11:00～12:00

講師 **Jerald Davison**（南カリフォルニア大学 心理学教授 老年学研究科研究科長）
世界の代表的な臨床心理学教科書:Abnormal Psychology の著者
アメリカ心理学会の臨床心理学部門の元会長

<休憩：12:00～13:00>

第2部 基調報告 ヨーロッパの危機支援の経験から 13:00～15:00

- ①災害時の危機介入における心理社会的支援の方法
講師 **Robert Bering**（Cologne 大学（ドイツ） 心的外傷研究センター所長）
EUの危機支援プログラム EUTOPIA の作成責任者
- ②子どもと若者のトラウマ治療の理論と実際
講師 **William Yule**（ロンドン大学精神医学研究所 応用児童心理学部門名誉教授）
子どもを外傷体験から守る財団 Children and War Foundation 代表

<休憩：15:00～15:30>

第3部 東日本大震災に被災者への支援の発展に向けて 15:30～17:30

- ①文科省における取組みと課題
講師 郷治 知道（文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課生徒指導室長）
- ②厚労省における取組みと課題
講師 福田 祐典（厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課長）
- ③被災地での心理支援の現状と課題
講師 村瀬嘉代子（東日本大震災心理支援センター長／日本臨床心理士会会長）
- ④登壇者による討論
日本の現状に関して、米国やヨーロッパの経験をどのように活用するのかについての議論

閉会の辞 岡田 康伸（日本心理臨床学会副理事長）

【申込方法：日本心理臨床学会会員】

- 同封の申込はがきに会員番号を必ずご記入の上、学会事務局へ送付してください。9月5日（月）締切で、定員を超える場合は抽選を行います。余裕がある場合には、締切後も受け付けます。なお、ホームページ（<http://www.ajcp.info/>）からの申込も可能です。ホームページから申込をされた場合は、はがきの送付は不要です。
 - 参加いただけることが確定した場合は、振込用紙を送らせていただきますので、その用紙を使用して、必ず9月20日（火）までに参加費をお振り込みください。定員の都合上、残念ながら参加いただけない場合は、その旨のご案内を送らせていただきます。なお、取消は他の参加希望者の迷惑となりますので、避けてください。
 - 参加が確定し、お振り込みが確認できた方には、領収書、入場券、参加章等を9月末に発送の予定です。
 - 自己都合による取消の際は、参加費の返金はできません。
- * 日本心理臨床学会会員以外の方は、学会のHP（www.ajcp.info/）よりお申込みください。郵便かFAXでお申し込みの場合は、学会事務局までご連絡ください（記載事項…必須：氏名、フリガナ、住所。任意：電話、メールアドレス）
なお、一般の方は先着順です。締切は9月5日（月）とします。